

湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部の歴史探訪ハイキング

～琵琶湖里山を大切に環境保全に努めましょう！～

元亀争乱—信長の危機

元亀年間(1500年代後半)に、湖西を中心に繰り広げられた織田信長 VS 反信長勢力(比叡山延暦寺・石山本願寺・浅井氏・朝倉氏など)の戦い。この戦いは、天下統一を控えた信長にとってこえなくてはならない高いハードルでした。高島市には、この戦いに関係したという地域が数多く、みなさんと歴史ロマンを語りましょう！

今津港→



↓木津の常夜灯



◆近江湖の辺の道(今津～新旭:元亀争乱の歴史探訪)

※日時 令和5年10月3日(火) 9:20~16:00 ごろ

※集合場所 IR 近江今津駅 9:20 集合

※コース JR 近江今津駅—今津港—二つ岩神社—竹生島遥拝所跡—木津港—御屋敷跡—森神社—阿弥陀寺—JR 新旭駅 16:00 頃

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 15名 ☆参加費 2,000円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費・事務経費)

※海津の願慶寺は、本願寺と織田信長の戦い(石山合戦)に三浦衆(今津浦・海津浦・大浦)を率いて参戦。竹生島弁財天に対する湖北の人々の信仰は篤く、竹生島蓮華会という盛大な祭りが継承され、浅井氏も信仰した。一方、織田信長も弁財天を信仰し、天正9年(1581)、信長は、突然竹生島に参詣し、弁財天を勧請し安土城に迎えた。元亀三年、「細川家文書:明智光秀書状」には、「五月十九日、高島の饗庭三坊の城を焼き討ちし今日戻った。この戦いを見た打下城の林員清は、信長さまの味方となる態度を明らかにした。この事を將軍様に伝えて欲しい。」とある。元亀四年、信長は高島攻めに際して、打下城に入り指揮を執っている。七月二十六日、信長は湖上から高島に攻め込み、木戸・田中の両城を難なく落とした。この両城を光秀に与えた。ここにおいて光秀の支配域は高島郡まで及ぶことになった。1570年、金ヶ崎の戦いから岐阜に戻る途中、千種越えで、杉谷善住坊が信長を火縄銃で狙撃。幸いかすり傷だったが、善住坊は逃亡。1573年信長に投降した元浅井家臣の磯野員昌によって阿弥陀寺で捕らえられたと伝わる。

(海津の石積)→



◆重要文化的景観と元亀争乱の歴史探訪(海津・西浜・知内の歴史探訪)

※日時 令和5年10月13日(金) 9:40~15:30 ごろ

※集合場所 IR マキノ駅 9:40 集合

※コース JR マキノ駅-海津天神社-崇正寺-宝幢院-願慶寺-共同井戸-海津西浜の石積など-福善寺-知内川-JR マキノ駅 15:30

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 15名 ☆参加費 2,000円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費・事務経費)

※海津は、海津衆と呼ばれる地侍が支配。海津衆は、浅井氏と縁戚関係を結び関係を深め、経済・軍事面で浅井氏を支えていた。元亀三年七月二十四日、信長は、明智光秀らに命じ湖上から海津・塩津・余呉の入海・湖北一帯に焼き討ちを仕掛けた。宗正寺には、海津長門守政元夫妻と饗庭局(最後まで淀殿に忠義を貫いた浅井の女性)の位牌が安置されている。また、海津長門守政元の室(浅井長政の叔母)が入寺して尼になったという記録がある。宝幢院の境内には、このお寺で謀殺された若狭領主武田元明の墓碑がある。元明の死で若狭武田氏は滅亡。願慶寺は海津願慶寺城跡と伝わる。本願寺と織田信長の戦い(石山合戦)に三浦衆(海津浦・今津浦・大浦)を率いて参戦している。

◆信長の朽木越え

朽木陣屋跡→

※日時 令和5年10月22日(日) 9:20~15:30 ごろ

※集合場所 高島市道の駅くつき新本陣 9:20 集合

バス JR 江若交通朽木線 JR 安曇川駅 8:30 発 朽木中学校前行 朽木学校前 9:05 着 別途 770円)

(帰り: バス江若交通朽木線 JR 安曇川駅行朽木中学校前発 15:50 着 16:28 別途 770円)

※コース 道の駅朽木本陣-市場の町並(旧圓滿堂跡など)-朽木陣屋跡-西山城跡-信長の隠れ岩-道の駅くつき新本陣 (信長の隠れ岩) ↑

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 10名 ☆参加費 2,500円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費・事務経費・バス賃別途)

※信長から毛利元就への書状:「若狭の武藤と申すものが悪逆を企てているので成敗しなさいと將軍から命令された」とある。ところが、信長は武藤氏ではなく越前に向かう(当時若狭国は、將軍・信長方と朝倉方に二分されていた。言うことを聞かない武藤氏が朝倉氏に援助を求めたと分かったので)。

申込方法は次のページ(裏面)をご覧ください



元龜元年(1570)4月20日、信長は朝倉氏討伐のため敦賀に侵攻したが、妹婿の浅井長政が裏切ったとの情報を得て急遽撤退を決意、4月30日京都へ引き返す。その退路として通ったのが今津の保坂から大津市葛川へ抜ける裏ルート「朽木越え」だ。当地の領主朽木元網は甲冑姿で出迎えようとした。この武装姿に驚いた信長は、同行の松永久秀・森三左衛門(可成)に元網の真意を確かめに行かせた。元網の敵意がないことを確認するまで、ここの岩窟に身を潜め待機したと伝わる。平服に着替えた元網は下市場の円満堂でもてなした。その際、元網の指示で家臣の長谷川茂政がお茶とお菓子でもてなした。これに感激した信長は、はいていた皮袴と銀製の箸を茂政に与えた。そして、元網は、朽木城に宿泊させ、翌日京都まで警護役も務めた。一方、信長軍の最後尾にあった秀吉・家康は朝倉軍の追撃をかわしながら撤退。この時、秀吉は「木地山越え」を、家康は「針畑越え」を通り京にたどり着いたと伝わる。

◆国の史跡 清水山城館跡と城下を探訪

※日時 令和5年11月11日(土) 9:20~15:30 ごろ

※集合場所 JR 新旭駅 9:20 集合

※コース JR 新旭駅—平井—犬馬場—御屋敷跡—地藏谷—東屋敷—西屋敷—

清水山城主郭—本堂谷遺跡—大荒彦神社—妙敬寺—安養寺—平井—JR 新旭駅

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 10名 ☆参加費 2,500円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費・事務経費)

※元龜三年、「細川家文書：明智光秀書状」には、「五月十九日、高島の饗庭三坊の城を焼き討ちし今日戻った。この戦いを見た打下城の林員清は、信長さまの味方となる態度を明らかにした。この事を將軍様に伝えて欲しい。」とある。元龜四年、信長は高島攻めに際して、打下城に入り指揮を執っている。七月二十六日、信長は湖上から高島に攻め込み、木戸・田中の両城を難なく落とした。この両城を光秀に与えた。ここにおいて光秀の支配域は高島郡まで及ぶことになった。



堀切



西屋敷の井戸を確認

◆”謎の大王“継体天皇伝承地めぐり

※日時 令和5年11月18日(土) 9:10~15:40

※集合場所 JR 安曇川駅 9:10 集合

※コース JR 安曇川駅—安閑神社—朧衣塚—高島歴史資料館—梅の子運動公園—三重生神社—たれ石—彦主人王御陵—36号墳—JR 安曇川駅

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 10名 ☆参加費 3,000円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費・事務経費)



彦主人王御陵



三重生神社

◆ 饗庭三坊の城日爪城跡と元龜争乱の歴史探訪

※日時 令和5年12月3日(日) 9:20~15:00 ※集合場所 JR 新旭駅 9:15 集合

※コース JR 新旭駅—日爪集落—南谷遺跡(ねごや)—日爪城跡(東曲輪群・土橋・主郭など)散策—JR 新旭駅 15:00

※参加 (事前申し込み制) ☆定員 10名 ☆参加費 2,500円(昼食・資料・イベント保険・環境整備費)

※元龜三年、「細川家文書：明智光秀書状」には、「五月十九日、高島の饗庭三坊の城を焼き討ちし今日戻った。この戦いを見た打下城の林員清は、信長さまの味方となる態度を明らかにした。この事を將軍様に伝えて欲しい。」とある。元龜四年、信長は高島攻めに際して、打下城に入り指揮を執っている。七月二十六日、信長は湖上から高島に攻め込み、木戸・田中の両城を難なく落とした。この両城を光秀に与えた。ここにおいて光秀の支配域は高島郡まで及ぶことになった。※饗庭三坊について、「高島郡誌」には、「吉武壱岐守は五十川村城に居る出自詳(くわ)ならず。或云美濃土岐氏の諸流なり、江州に來りて山門の代官となり饗庭弥太郎と号す。其の家分かれ三となり、長子は西林坊と号し日爪城に居り、次子は定林坊(じょうりんぼう)を号し霜降村に居り、季子(きし)壱岐守は、五十川村の吉武城に居り、元龜三年信長山門を討ちし時三家共に浪人す」記す。※「來迎寺文書」によると、永祿9年(1566)浅井長政は、「河上六代官」と呼ばれる西佐々木一族の影響下にあった善積荘・河上荘および保坂関・木津荘の取り分を西林坊・定林坊・宝光坊(ほうこうぼう)に宛がっている。



※申込方法：電話・メール・FAXにて、代表者のお名前・ご住所・電話番号・参加者全員のお名前・生年月日をご記入して申し込んでください。ただし、メール・FAXでお申込みの場合、事務局より2・3日以内に受付の確認をします。2・3日以内に連絡のない場合はお電話でお問い合わせください。※その他 コロナ感染対策を講じたうえでハイキングを催行します。参加されるお客様にもマスクなどの着用をお願いします。

<https://koseiyumehu04.web.fc2.com>

TEL/FAX 0740-32-0206

携帯 09046877589(阿部)

e-mail : qsms10680@maia.eonet.ne.jp

主催 湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部